小学校の事例 南区 常盤小学校

出前授業を取り入れ、「本物」を感じて環境と向き合う取組。

様々な分野の専門家等とふれあいながら学ぶ出前授業。
身近な例や動物の事例など、興味をわかせる題材と子どもの関心を高める
大画面での映像学習という方法で、環境保護を考える取組に。

内容 ボルネオのオランウータンから教えてもらう 森林破壊

本校では、出前授業を多く取り入れている。10月に、生物多様性について研究をしている大学教授をゲストティーチャーとして招き、4年生～6年生に「生物多様性から学ぶ環境について」授業を行った。

授業のテーマは主に2つ。1点目は、自分たちの身のまわりで多くの食料品や化粧品、洗剤などの日用品に使われているパーム油についてである。パーム油を作り出すために大規模なヤシ畑が新たに作られ、そのために動物の棲む場所が脅かされている。餌を求めてヤシ畑に入った動物は、栽培の邪魔者として捕獲、若しくは殺傷されてしまっているということである。

そしてもう1点は、同じく身のまわりにある、安価で売られている家具についてである。家具の生産のために、ボルネオの森の木々が伐採され、オランウータンが棲みかを奪われ犠牲になっているということである。

この2点を取り上げ、大画面の電子黒板にパワーポイントで作製した資料画像などを映し出し、子供たちに問いかけ反応を見ながら進める方法での授業であった。

ボルネオの森林について

スライドによる説明

効果 自分の生活とのつながりに気付くことで生まれる環境保護の意識

問いかけられながら進む授業に、子供たちは自分で考えながら真剣に聞き入っていたようすだった。初めに映し出された可愛い動物たちの身に起きている現実に、だんだんと「これはおもしろおかしい話ではない」と気付き始め、真剣な表情に。衝撃は大きかったようで、中には涙ぐんでいる子どももいた。授業後、子供たちからは、「今もっているもの、使っているものを無駄にせず、大切にしよう」「買う時には成分表示などを見てみよう」「お菓子を大事に食べよう」などという声があがった。

廃油リサイクル

注意点 事前打ち合わせと連携がポイント

事前打ち合わせと、「楽しい」だけで終わらせない連携（ゲストティーチャーは盛り上げ役、担任は要所でフォローし、本来の目的を確実に子供たちに伝えるための進行役になるような構成）が必要。また、子供たちに向けて事前に概要を説明する際には、新鮮さや緊張感を損なわないようにする伝え方が必要となり、与える情報量の調整に気をつかうところだ。ゲストティーチャーに対して失礼がないようにという点にも気をつけ、学校側のフォロー態勢を整えておくことも大切である。

環境についての授業

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校から メッセージ

ゲストティーチャーを招くことには、慣れ親しんだ相手から話を聞くよりも、新鮮味や緊張感が生まれるというよさがあります。また、その道の専門家であり、「本物」ならではの話を聞くことや、疑問・質問にその場で詳しくわかりやすく答えてもらえるということは、子供たちにとってとても大切で有意義なことです。本校では今回の授業のほかに、企業による温暖化についての出前授業や、北海道大学の学生による「廃油リサイクル」に関する出前授業（実践型・キャンドル作り）を行ったことがあります。環境と向き合うことは、けっしてきれいごとではなく、これから生きていくために必要なことです。本校では、「自分の生活に直接関わり、家庭に戻った時にもできること。実践できること」が環境教育の視点として大切であると考えています。何でも取り入れるというわけにはいきませんが、「学習内容としてどう組み入れるか」をきちんと検討したうえで、今後もカリキュラムの一つとして位置付けていきたい取組です。